

学校法人 目白学園

第4次中期目標・中期計画

(目白大学大学院及び研究所等附属施設)

(2020年度～2023年度)

2020年4月

目 次

第1部 目白大学大学院	P 1
1 教育	P 1
2 研究	P 4
第2部 研究所等附属施設	P 7
1 事業	P 7

第1部 目白大学大学院

1. 教育

全学的な中期目標
<p>本学大学院は、建学の精神「主・師・親」に則り、高度に専門性を深め、幅広い知識や技能を有する研究者、それらを俯瞰し、活用できる高度専門職業人、高度で知的な素養のある人材等、今後の知識基盤社会を多様に支える人材を育成することで、社会の発展や文化の創造に積極的に貢献することを基本的な目標とする。</p> <p>1. 各学問領域において基礎となる領域を深く学修するとともに、それらを統合した、より複雑で流動的な学際的・複合的な領域についても学修できるようにする。</p> <p>2. 実践的な課題について積極的に取り組み、時代のニーズに即した社会的な課題を解決するための教育を目指す。</p> <p>3. 効果的な学生募集に向けて、本学大学院及び研究科専攻の教育研究の特徴を広く広報する体制を整備、構築する。</p> <p>4. 学生のキャリアパス形成支援の取り組みに向けて、学内関係部署の有機的連携を促進し、キャリアパス支援事業の推進を図る。</p>

全学的な中期計画	2020年度計画
<p>(1)研究科の専門分野に関する科目を中心とし、併せて豊かな学識を養うための関連分野の科目からなる教育課程を編成する。</p> <p>(2)専門分野に関する高度な知識・技能等を身に付けさせるとともに、実践的、応用的な力が身につくような教育及び研究指導を行う。</p> <p>(3)内部進学者、社会人学生、留学生等の多様な学生の受入れを促進するため、多様かつ適切な広報並びに学生募集を実施する。</p> <p>(4)修了者の進路・就職状況の把握、キャリアパス形成に資する情報提供、セミナーの開催等、学生のキャリア支援に向けた取り組みを実施する。</p>	<p>(1)研究科で修得する能力を明示するため、学位授与方針及び学位審査基準に沿った専門能力の策定を行う。</p> <p>(2)専門分野を深める授業（研究倫理教育を含む）の充実を行うとともに、修了後の進路を想定した教育を充実させるための具体案を策定する。</p> <p>(3)これまでの内部進学・社会人・留学生の入学実績をもとに研究科における募集の在り方について検討し、募集強化の具体案を策定・実施する。</p> <p>(4)修了生の進路・就職状況に関する情報を集約し、就職・キャリアを支援するための具体案を策定する。</p>

研究科	中期計画	2020年度の計画
国際交流	<p>(1)国際交流に関する諸課題を人文・社会科学の諸分野をベースに学際的・複眼的な視点から広くかつ深く学修する魅力的なカリキュラムに再編成する。</p> <p>(2)国際・地域社会において実践的・主体的に活動できる高度職業人・教養人、グローバル人材等の育成に向けて研究科を挙げた教育・研究指導を行う。</p> <p>(3)留学生、新卒者、社会人等、多様な層からの学生の受け入れを促進するために、効果的かつ持続的な広報戦略及び学生募集を展開する。</p> <p>(4)修了生の進路・就職状況の把握、留学生向けセミナー、社会人向けリカレント教育等、学生のキャリア支援に向けた取り組みを実施する。</p>	<p>(1)社会学部2学科のカリキュラム改訂と並行して、社会学部2学科をベースとし、社会学部の専門教育に接続させた開設科目の見直しに関する構想について検討を継続する。</p> <p>(2)学位論文に係る評価基準の公表義務化を受け、この基準の適用が円滑に行われるよう中間発表会及び最終試験を軸とした研究科全体による学位論文の指導体制を強化する。</p> <p>(3)研究科紹介チラシの作成・配布、大学院ウェブサイトの活用、オープンキャンパス・進学相談会の対応等、引き続き粘り強い広報戦略と学生募集を行う。</p> <p>(4)修了生の進路・就職状況の把握、学生の就職活動を支援するためのキャリアセンターとの連携、特に留学生向け就活セミナー等の情報共有を図る。</p>
心理学	<p>(1)各専攻における特徴を生かした心理学の専門的知識を修得し、人の心理に</p>	<p>(1)新任教員の加入により、修士課程2専攻の効果的な協力体制を再検討し、教員構成とカリキュラムについて検討してい</p>

<p>(研究科全体)</p> <p>(修士課程)</p> <p>(博士課程)</p>	<p>関連する諸問題への実践的、応用的な力が身に付くような教育及び研究指導を行う。</p> <p>(2)内部進学者、社会人学生、留学生等、各専攻の特色に応じた学生の受け入れを考慮し、多用かつ適切な広報並びに学生募集を行う。</p> <p>(3)各専攻における修了者の進路・就職状況を把握するとともに、キャリアパス形成に向けての情報の提供、講演会の開催など、学生のキャリア支援に向けた取り組みを実施する。</p> <p><現代心理学専攻></p> <p>(1)修士論文の評価について新たに評価基準を定める。それを活用した学生指導を実践し、質の高い修士論文を作成できるように指導する。</p> <p>(2)これまでの現代心理学専攻の科目について見直し、今の時代にあわせた魅力ある授業内容を検討していく。</p> <p>(3)現代心理学専攻の魅力を学内、学外に広め大学院教育の充実をめざす。</p> <p><臨床心理学専攻></p> <p>(1)公認心理師を養成するため、心理カウンセリング学科と連動した教育を行い、そのためのカリキュラムを編成する。</p> <p>(2)優秀な学生確保のために、心理カウンセリング学科からの内部進学者枠を設け、新たな選抜方式を作る。</p> <p><心理学専攻></p> <p>(1)修士課程・博士課程の連続性ある大学院教育体制を検討し、博士課程の質の維持・向上を図る。</p> <p>(2)博士課程進学希望者に向けた入試広報活動を強化する。</p>	<p>く。</p> <p>(2)内部入試制度の創設・実施に向けて、関連部署との検討を心理カウンセリング学科と共に行っていく。</p> <p>(3)研究科講演会等が、修了生の卒後教育、キャリア支援の一助となるよう、実施内容について検討する。</p> <p>(4)修了生の同窓会組織創設について、実現可能性を検討する。</p> <p>(1)修士論文の新たな評価基準を採用する初年度になるため、その基準内容が適切かどうかを検討していく。</p> <p>(2)他大学院の教育内容及び科目構成について調査し、これからの現代心理学専攻の進むべき方向性を検討する。</p> <p>(3)現代心理学専攻の魅力を知ってもらい、大学院教育の充実を進める。そのために心理カウンセリング学科の2年生に対して現代心理学専攻の内容や特色を専門とキャリアの授業において説明する。また3年生4年生に対しては各ゼミで現代心理学専攻独自の広報用チラシを配布する。</p> <p>(1)臨床心理学専攻の内部枠選抜試験を新たに実施する。</p> <p>(2)学生の勉学意識向上のために、奨学金制度について検討を行う。</p> <p>(3)修了した学生のためのフォローアップ・システムを検討していく。</p> <p>(1)他大学院のみならず、本学修士課程修了者の中で、教育・研究職をめざす優秀な人材の博士課程進学を推進する。</p> <p>(2)本学博士課程の特色、担当教員の専門性等について、入学案内や大学院オープンキャンパスにおける広報活動を強化する。</p>
<p>経営学</p> <p>(研究科全体)</p> <p>(修士課程)</p> <p>(博士課程)</p>	<p>(1)理論的教育と実学的な教育とのバランスのとれた教育体制の構築。</p> <p>(2)経営学、マーケティング、会計学等経営学全般の理論体系を身に付け、実学教育の充実をはかる。</p> <p>(3)専攻の選考方法を見直し、国際的に開かれた大学院を目指す。</p> <p>(4)研究職や教育職を目指す学生や企業で実績を挙げた者に対して、経営学全般の知識や理論体系をより深く理解してもらうことで、質の高い博士論文の作成ができるよう指導する。</p>	<p>(1)新任教員を新たに加えることにより、経営学全般の理論体系を学ぶ体制を整えるとともに、より実践的な教育が実現するよう教員全体でカリキュラムについての検討を行なっていく。</p> <p>(2)オープンキャンパスやその他の活動を通して、経営学研究科の特色を伝えるための広報活動を強化する。</p> <p>(3)幅広いバックグラウンドをもつ学生が共に学べる開かれた教育の場となるよう、選考方法を検討する。</p> <p>(4)今後の修了生のキャリア形成に役立てるために、修了生のキャリアのフォローアップを実施し、データとして蓄積するためのシステムづくりを実施する。</p>
<p>生涯福祉</p>	<p>*教育の方針を抜本的に見直し、カリキュラムの改変を検討する。現時点での計画は以下のものである。</p> <p>(1)福祉学と保育学を異なる専門分野として位置づけるよう科目を配置し、その両領域を学ぶことにより、生涯福祉の視点をも得る教育課程を編成す</p>	<p>(1)福祉学と保育学の専門科目をより充実し、生涯福祉の視点をより学びやすくするため、カリキュラムの再編を検討する。</p> <p>(2)実践的、応用的な力が身に付くように、①個々の教科において、理論や制度の教育に加えて、可能な限り実践例を活用した講義を実施する。②管理者養成のための科目(組織論やリーダーシップ論)を加えることを検討する。③修士論文指導</p>

	<p>る。</p> <p>(2) 両専門分野に関する高度な知識・技能等を身に付けさせるとともに、実践的、応用的な力が身に付くような教育及び研究指導を行う。現場でのリーダーとして働くための必要な情報を提供できる科目を用意することを検討する。</p> <p>(3) 内部進学者、社会人学生、留学生等の多様な学生の受入れを促進するため、多様かつ適切な広報並びに学生募集を実施する。</p> <p>(4) 修了者の進路・就職状況の把握、キャリアパス形成に資する情報提供、セミナーの開催等、学生のキャリア支援に向けた取り組みを実施する。</p>	<p>において、より実践応用を行える視点で指導する。</p> <p>(3) 主に高齢者施設・障がい者施設と保育所、児童関連の施設の専門職に向けて、学生募集の検討を行う。</p> <p>(4) 修了者の進路・就職状況の把握し、修了者との関係を維持し（中間発表や最終発表への参加）、修了生との関わりの構築を検討する。</p>
言語文化	<p>(1) 学生の修了後のキャリアパスと人生設計に貢献するカリキュラムを編成する。</p> <p>(2) 高度な専門知識と領域横断的・普遍的な技術・リテラシーを修得するために、複数の専攻・研究科により横断・連携したプログラムを検討する。</p> <p>(3) 複数専攻性を検討する。</p> <p>(4) 学部教育との接続を意図して第 3 次中期計画で検討した学部・大学院 5 年修了プログラムの実現を目指す。</p> <p>(5) 「学び直し」を願う社会人を主対象とするリカレント教育を意図した科目群の設置を検討する。同時に、一定のまとまりのある「履修証明プログラム」の開設を検討する。</p> <p>(6) 日曜開講の技術的問題を整理する。</p> <p>(7) 社会人学生の定年後の人生設計を念頭において、科学技術リテラシーならびにビジネススキル科目の拡充ならびに他研究科との共有を検討する。</p> <p>(8) 長期履修制度の利点をより積極的に広報する。</p>	<p>(1) 修了生の進路を調査・整理し、研究科構成員で情報共有する。</p> <p>(2) 複数専攻・研究科との連携についての技術的問題を整理し、問題点を明示する。</p> <p>(3) 複数専攻性についての前例を調査し、実現のための技術的問題を明示する。</p> <p>(4) 5 年修了プログラム実現についての学内調整に着手する。</p> <p>(5) 潜在的受験生としての社会人の関心・希望の組織的調査に着手する。また、学部での「履修証明プログラム」の実績について構成員で情報共有する。</p> <p>(6) 主に現職者・現職教員を想定した、学ぶ機会の需要について調査に着手する。</p> <p>(7) 第 4 次中期計画における「学際カリキュラム」の一層の拡充について、新科目設置、また他研究科との連携の技術的問題を整理する。</p> <p>(8) 長期履修生の事情と満足度を確認する。また広報部による印刷物、インターネット、公開講義の際の配布物における広報の重点化、さらに広報機会拡充の可能性を検討する。</p>
看護学	<p>(1) 修士論文は公平な審査手順に基づき行う。</p> <p>(2) 看護学研究科の人材養成目的を明確化し、その目的を達成するための新しい分野構成の検討、目的を達成するためのカリキュラムを再構築する。</p> <p>(3) 入学定員の見直し、3 分野（看護マネジメント学分野、ウィメンズヘルス看護学分野、コミュニティ看護学分野）を再編成する。</p> <p>(4) 研究の基礎的知識と技術、研究の遂行に関する教育指導体制の強化を図る。</p> <p>(5) 受験生確保策を、入試広報課と情報交換して取り組む。</p>	<p>(1) 修士論文審査の基準、評価表による公平な審査を行う。</p> <p>(2) 研究を指導する教員の確保を行う。</p> <p>(3) 長期履修者を含む研究指導学生数に対する論文指導教員数の確保、適切な入学定員数を検討する。</p> <p>(4) 3 分野を専攻する学生の課題、指導上の課題を明確にし、現任教員の専門性や研究分野を生かした教育体制を検討する。</p> <p>(5) 新しく大学院を担当する教員の院生への研究指導の質を担保し、大学院での教員の役割が遂行できるよう 3 分野の組織的な取り組み及び看護学研究科全体での指導体制を組織化する。</p> <p>(6) 受験生を確保するため、従来の紙媒体による情報提供から、電子情報への掲載ならびに看護専門誌への広告掲載等への変更を行う。入試広報課と協働して行う。</p> <p>(7) 受験生を確保するため、岩槻キャンパスでの大学院個別相談会と別日に、看護学研究科を設置している国立埼玉病院キャンパスで、受験生のための進学相談会を年 2 回行う。</p>
リハビリテーション学	<p>(1) PT・OT・ST の 3 分野バランスの取れた定数を確保する。</p> <p>(2) 修士学生の研究力の向上を図る。</p>	<p>(1) 大学院教育に興味を持つように学部生や、関東近辺の養成校教員や医療施設等で働く現職者に広報活動を継続する。</p> <p>(2) 修士論文審査の内容を検討し、研究内容と学生の研究意欲の向上を図る。</p>

2. 研究

全学的な中期目標
<p>本学の大学院は、「国際交流」「心理学」「経営学」「生涯福祉」「言語文化」「看護学」「リハビリテーション学」の専門領域に関わる研究を進める。</p> <p>1. 各専門領域における基盤的な学問研究を深化させるとともに、複合的な領域に積極的に取り組み、それぞれの専門的な課題の探求とその解明を目指す。</p> <p>2. 外部機関や組織との連携強化等を推進し、現実課題に即した研究を促進することによって、広く社会に貢献する。</p> <p>3. 研究成果を知的財産として蓄積するとともに、大学の研究成果を社会に広く還元する。</p> <p>4. 研究活動に集中できる環境整備、経済的支援等、学生への研究支援の充実を目指す。</p>

全学的な中期計画	2020年度計画
<p>(1)各専門領域において、それぞれ基盤となる研究を深めるとともに、複合的な領域に組み、より質の高い研究成果を産み出し、発信する。</p> <p>(2)時代のニーズに基づく実践的課題に即した研究等への支援体制を整備し、研究の推進を図る。また、社会との接点を重視し、産学官連携や地域連携等を促進する。</p> <p>(3)学生および指導する教員の研究活動や社会貢献活動について、学内外への効果的な情報発信に努める。</p> <p>(4)研究に関わる施設・設備、研究費等の支援を向上させる。</p>	<p>(1)博士論文のリポジトリ化を進める一方、リポジトリの運用ルールを確定させる。剽窃チェックツールを効果的に用いて、精度の高い研究成果を目指す。</p> <p>(2)各研究科において、AIおよびデータサイエンスの教育への活用、高齢化社会への対応、バリアフリーを意識した都市設計等、現代における実践的課題への研究を促進するとともに、新宿区等、地域や企業からの意見を取り入れた共同研究等を推進する。</p> <p>(3)研究科主催の研究会、講演会の開催を奨励し、また教員の学会発表だけでなく、地域での研究会等、学外での研究成果の発信を促進する。</p> <p>(4)新宿キャンパス8号館新設に伴い、学園全体の研究室、院生学習室の拡充を図る。また学内の共同研究を推進するために、特別研究費の「学術研究プロジェクト助成」等の活用を促す。</p>

研究科	中期計画	2020年度の計画
国際交流	<p>(1)各専門領域における基盤的研究を深めるとともに、学際的・複合的領域における先取的研究に組み、より質の高い研究成果を産み出し発信する。</p> <p>(2)時代のニーズに基づく実践的課題に即した研究の推進を図るとともに、社会との接点を重視した産学連携や地域連携等によるプロジェクトを進める。</p> <p>(3)公開講演会やワークショップの開催による社会問題解決への積極的コミットメント等、社会貢献力を高め、学知の社会への還元・普及を促進する。</p> <p>(4)学会発表、学会誌・紀要等への投稿、競争的外部資金の獲得、学内外の共同研究の推進等、研究成果の発信を推奨し促進する体制づくりを行う。</p>	<p>(1)人文・社会科学分野の基盤的研究とともに、学際的・複合的新領域の先取的研究にも挑戦し、国際交流研究科の魅力度アップにつなげていく。</p> <p>(2)2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国際交流、産学連携及び地域連携等プロジェクトを企画または共同推進する。</p> <p>(3)社会貢献活動や地域連携事業の一環として、また国際交流に関する共同研究の場として公開講演会を開催する。</p> <p>(4)研究科ウェブサイトの活用等による研究科構成員の研究活動成果の効果的・積極的な情報発信を呼びかける。</p>
心理学 (研究科全体)	<p>(1)学会での研究発表、学会誌・紀要等への投稿、競争的外部資金等の獲得等、研究活動の促進を図る。</p> <p>(2)教員のみならず、学生の研究活動や社会貢献活動を積極的に進める。</p> <p><現代心理学専攻></p> <p>(1)時代のニーズに基づく実践的研究を進める。</p>	<p>(1)教員の国内外の学会参加、研究発表の機会を確保し、研究論文執筆のための時間確保に向けた協力体制を整える。</p> <p>(2)学生に対して学会への参加を積極的に促し、研究発表に際しての指導を行う。</p> <p>(1)実践的研究課題の具体的内容を検討する。</p>

<p>(修士課程)</p> <p>(博士課程)</p>	<p>(2)現代心理学専攻に所属する教員の専門分野において産学官連携や地域連携等を促進する。</p> <p>(3)学生および指導する教員の研究活動や社会貢献活動について、学内外への効果的な情報発信に努める。</p> <p><臨床心理学専攻></p> <p>(1)科研費等競争的外部資金に積極的に応募し、研究をより一層推進していく。</p> <p>(2)研究の成果を、国内外の学会にて発表する。</p> <p>(3)学生の修士論文の学会発表を積極的に指導する。</p> <p><心理学専攻></p> <p>(1)学生の学会での研究発表、学会誌・紀要への論文投稿を積極的に支援する。</p>	<p>(2)現代心理学専攻の教員がかかわれる産学官連携および地域連携についての情報交換をする。</p> <p>(3)教員の研究成果を公表する方法について検討する。</p> <p>(1)科研費等による研究成果を前年度同様に、国内外の学会にて積極的に発表すると同時に、それらの成果を論文としてまとめる。</p> <p>(1)学生の学会での研究発表、学会誌・紀要への論文投稿を積極的に支援する。</p>
<p>経営学</p> <p>(研究科全体)</p> <p>(修士課程)</p> <p>(博士課程)</p>	<p>(1)理論的研究と実学的な研究とのバランスのとれた研究体制を構築する。</p> <p>(2)学会での研究発表、学会誌・紀要等への投稿など、研究成果の外部発信の促進を図る。</p> <p>(3) 科研費またはその他の競争的外部資金に積極的に応募し、研究をより一層推進していく。</p> <p>(4)研究・教育能力の高い教員を確保できる環境・体制作りについて検討する。</p>	<p>(1)理論的研究と実学的な研究における情報交換の機会を設け、時代のニーズに即した研究の実施を促進する。</p> <p>(2)教員が研究成果の発表を行えるよう、学会参加、研究発表の機会を確保し、研究論文執筆のための時間確保に向けた協力体制を整える。</p> <p>(3)科研費等またはその他の競争的外部資金等の情報を提供できる体制づくりを検討する。</p> <p>(4)教員の社会貢献活動の成果などを積極的に外部に発信していく。</p>
<p>生涯福祉</p>	<p>(1)各専門領域において、それぞれ基盤となる研究を深めるとともに、複合的な領域に取り組み、より質の高い研究成果を産み出し、発信する。</p> <p>(2)時代のニーズに基づく実践的課題に即した研究等への支援体制を整備し、研究の推進を図る。また、社会との接点を重視し、産学官連携や地域連携等を促進する。</p> <p>(3)学生および指導する教員の研究活動や社会貢献活動について、学内外への効果的な情報発信に努める。</p> <p>(4)研究に関わる施設・設備、研究費等の支援を向上させる。</p>	<p>(1) 福祉学と保育学両領域で、教員がより研究を深める。異なる領域が1つの研究科に存するために、お互いに新たな発想や共同研究の可能性と機会を検討し、可能なものから実行する。</p> <p>(2) 実践研究のフィールドとの連携をより深め、地域に貢献できる研究の推進を図るため、地域連携のための工夫と促進を行う。</p> <p>(3) 学生および教員の研究活動、社会貢献活動の発信を積極的に行っていく。具体的には、公開講義や公開シンポジウムの場を活用し、研究科としての特徴を、研究の発表の場とコラボレーションできるような機会を検討する。</p> <p>(4) 大学院としての機能をより充実するためのソフトやハード部分の内容を充実させるための方策を考える。</p>
<p>言語文化</p>	<p>(1) 教員との共同研究の形で学生の学会発表を推進し、学生のキャリアパス拡充に寄与する。</p> <p>(2) 修了後の修士論文の学会発表ならびに公刊について、修了生の援助方法を検討する。</p>	<p>(1) 学生の過去の学会発表を整理し、構成員間で情報共有する。</p> <p>(2) 修了生の援助についての問題点を整理し、構成員間で情報共有する。</p>
<p>看護学</p>	<p>(1)各専門領域における基盤となる研究を深める。</p> <p>(2)隣接する学問分野の研究との交流を行い看護学研究の進展を図る。</p> <p>(3)研究の倫理的配慮について継続して周知する。</p> <p>(4)研究成果の情報発信について方法を検討し発信する。</p>	<p>(1)指導する教員ならびに修了生の研究について、学会発表等の成果を大学院ホームページで情報発信する。</p> <p>(2)研究能力向上のための大学院FDを企画し年1回開催する。</p> <p>(3)研究の倫理的配慮について、新入生オリエンテーションでの説明、看護研究方法の講義、論文構想発表会の機会をとおして、院生に周知する。</p> <p>(4)関連する学会への参加、発表、投稿を促す。</p>

リハビリテーション学	<p>(1)隣接の他研究科並びに保健医療学部との研究交流を活性化し、研究の進展を図る。</p> <p>(2)研究科教員の共同研究を促進し、院生および修了生と教員の共同発表を推進する。</p> <p>(3)「目白大学における人及び動物を対象とする研究に係る倫理審査委員会」への倫理審査申請の円滑化を図る。</p>	<p>(1)関連研究科並びに保健医療学部との連携や研究協力の方策を検討する。</p> <p>(2)修士論文の質を向上させ、院生および修了生の学会発表や、研究機関紙への投稿指導を促進する。</p> <p>(3)倫理審査の日程に合わせた研究計画の立案ができるよう、年間の研究スケジュールを調整する。</p>
------------	---	---

第2部 研究所等附属施設

1. 事業

全学的な中期目標
本学に附置する心理カウンセリングセンター、耳科学研究所クリニックは、それぞれ独自の活動を行ってきた。各センター等が果たしている機能・役割を検討するとともに、学生・院生への教育、教員の研究・社会貢献等の活動との関係を明らかにする。また、各センター等に関する社会的ニーズを踏まえて、学内外との連携を含めた今後の役割や機能を明らかにする。

全学的な中期計画	2020年度計画
各センター等の機能や役割を検討する。 (1)各センター等と教育・研究・社会貢献活動との関係を明確にする。 (2)各センター等に関わる社会的課題及びニーズを明らかにする。 (3)各センター等の現状と課題を踏まえて、今後のあり方を広く検討する。	(1)各センター等の機能・役割を明確にする。 (2)各センター等と教育・研究・社会貢献活動との関係を見直し、現状を明らかにする。

センター等	中期計画	2020年度の計画
心理カウンセリングセンター	(1)臨床専攻の大学院生の教育の充実を図る。 (2)相談業務の充実を図る。 (3)公開講座などの地域貢献を図る。	(1)新たに開始した公認心理師用の臨床実習についての評価を行う。 (2)集団療法など大学院教育に資する新たな活動の導入を検討する。 (3)新規受け入れ事例についての検討をしていく。 (4)公開講座・公開セミナーを継続して実施する。
耳科学研究所クリニック	(1)耳鼻咽喉科・リハビリテーション科の診療を通じて地域貢献・社会貢献を果たす。 ①めまいリハビリセンター（仮称）化、めまい専門診療の拠点化について構想する。 ②国内初その他職種連携めまいリハビリ・認知行動療法を推進する。 ③より安心・安全な医療を構築する。 (2)臨床教育施設として教育の充実、維持、向上を図る。 ①メディカルスタッフ専門スタッフ養成を推進する。 ②さいたま岩槻キャンパスの卒前および卒後臨床教育を推進する。	(1)地域の医療機関との連携を強化する。 (2)多職種と連携して目白大学の特色を生かした質の高いめまい・難聴診療を推進する。 (3)めまいリハビリセンター（仮称）化について立案・検討する。 (4)研究所クリニックで得られた知見を積極的に学会・論文発表する。 (5)医療安全・危機対策の一貫として急変時対策、クレーム事故対策、針刺し事故対策等を検討・実施する。 (1)メディカルスタッフを対象とした実技講習会を実施する。 (2)メディカルスタッフの学位取得を支援する。 (3)理学療法学科、言語聴覚学科、看護学科等と連携を図る。